

学会創立八十周年・学会誌通刊七十号を記念して

中国文化学会会長

安藤信廣

中国文化学会は今年で創立八十周年を迎え、学会誌『中国文化』は通刊七十号を刊行することとなった。この長い歴史をふりかえるとき、本学会に所属し、学会の運営を支え、優れた研究を展開して来られた多くの先人に、何よりもまず感謝申し上げたい。

本学会の前身である東京文理科大学漢文学会は、一九三二年（昭和七年）に発足し、学会誌は『漢文学会会報』と名付けられた。一九五三年（昭和二八年）、新制東京教育大学開学にともない、名称を東京教育大学漢文学会と改めたが、学会誌名はそのまま継承された。一九七八年（昭和五三年）、東京教育大学が開学すると、本学会はそれを契機として、特定の大学と連動せず、全国に向かって開かれた学会として再出発する道を選び、翌年、大塚漢文学会と改称し、学会誌名を『中国文化』とした。同時に、学会事務局を筑波大学に置くこととし、以後、筑波大学のスタッフには多大の尽力をいただいている。さらに一九九八年（平成十年）には、学会の目的を「中国文化及び漢文学の研究とそれに基づく教育への寄与」とし、中国文化学会と称することとなった。

八十年の歳月をあらためて回顧すると、本学会の歴史は、学問・研究・教育をめぐる社会状況の激変により、多くの困難を余儀なくされた歴史だったことが分かる。しかし他方、状況に流されることなく、激変に際して会員たちが自らの力によってそれを克服し、協力しながら主体的に進路を切り開いてきた歴史だったことも理解できるのである。そうした多くの努力の積み重ねによって、本学会は、この八十年間、中国思想・文学・言語・文化・日本漢文の研究、及び漢文教育の実践において、ささやかながらも社会に対して自負し得る役割を果たしてきたと言えるであろう。学会創立八十周年・学会誌通刊七十号刊行のときに当たり、先人の努力を思い起こし、再び新しい発展を心に期することを呼びかけて、記念の言葉としたい。